

SMILE-II+実験概要

高田 淳史 (京都大学)

谷森 達,水村 好貴,古村 翔太郎,岸本 哲朗,竹村 泰斗,吉川 慶, 谷口 幹幸,中村 優太,小野坂 健,斎藤 要,窪 秀利,黒澤 俊介 (東北大), 身内 賢太朗 (神戸大),澤野 達也 (金沢大),濱口 健二 (GSFC)













SMILE-2+

▶ 気球

アリススプリング (2018年4月) 水平浮遊高度: 38.9 km ペイロード重量:~500 kg

▶ 検出器 Geant4 シミュレーション -> ◆ 有効面積: 2~3 cm² @ 300 keV

◆ PSF: ~10° (half power radius)
◆ エネルギー帯域: 300~1.5 MeV

> 観測対象

◆電子陽電子対消滅線 @ 銀河中心領域
◆かに星雲









SMILE-2+による511 keVガンマ線の観測















まとめ

- MeVガンマ線天文学の発展には『正しいPSF』が必要
 - 反復計算を用いた統計的推定法ではPSFはあやふや
 - コンプトン望遠鏡では反跳電子の方向を測定することで PSFが大きく改善する
- SMILE-2+
 - 2018年4月にアリススプリングから放球予定
 - 有効面積: 2~3 cm² (< 300 keV)
 - PSF : ~10° (662 keV)
 - -> 検出器についての詳細: 竹村

システム概要:吉川

- 将来計画で期待される観測
 - 核ガンマ線の銀河面分布 -> 物質拡散, 宇宙線起源
 - 系外拡散ガンマ線 -> 系外ガンマ線の起源,銀河進化

等々

- ガンマ線バースト -> 起源, 放射機構
- Ia型超新星爆発 -> 元素合成, 爆発起源





©Higgstan



we need to improve both ARM and SPD.